

虚子記念文学館投句特選句

・令和二年八月

稲畑汀子 選

生きてゐてこそその再会秋涼し

新潟 安原 葉

晩夏とは雲の色にも流れにも

兵庫 小杉伸一路

目を空へ逸らせば百合の花かをる

鳥取 前田 千

たまゆらの風鈴の音に解くこころ

兵庫 中村恵美

晴れ上がる朝一気に蟬しぐれ

兵庫 奥田好子

万象を励ますごとしカンナ燃ゆ

滋賀 石川多歌司

サングラスかけて母校に踏み入りし

神奈川 進藤剛至

山の日にタグボート見る暑さかな

兵庫 キートスばんじょうし

にぎりめし塩多めなる炎暑かな

神奈川 平野政良

アマビエの絵つき風鈴寺の道

兵庫 武田奈々

(青少年)

入選句・令和二年八月

剪りとりてカンナの赤のやや褪めて	兵庫	辻 桂湖	猫の肘緩みて眠る残暑かな	兵庫	高市敦之
太鼓腹褒め合ふことも草相撲	兵庫	笹尾玲花	拝見す仰臥漫録力あり	兵庫	谷間 薫
待たされて廻して止めてひからかさ	兵庫	永沢達明	脳天に蟬紛れ込む酷暑かな	東京	宮村土々
一撃のありて本気や水鉄砲	兵庫	涌羅由美	海よりの風まつすぐに夏座敷	石川	辰巳葉流
諷詠の道一筋や生身魂	兵庫	岩水ひとみ	白山を紫に染め今朝の秋	石川	辰巳昌彦
朝顔の水やりからの一日かな	兵庫	河野ひろみ	小流れをなほ狭めゆく秋の草	愛知	村瀬みさを
朝涼や日課となりし早歩き	兵庫	深尾真理子	この夕べ葉眠り目覚む合歓の花	神奈川	金子三奈乃
蟬の声はたと止みたる真昼かな	兵庫	玉手のり子	削り氷溶けてみづいろ江戸切子	東京	三球
月涼しやうやくに日をまたぐ頃	兵庫	岸川佐江			
カンナ燃ゆ市民花壇の最後列	兵庫	高橋純子			
泣き相撲男の子女の子の差のなくて	大阪	西尾浩子			
汗涼し虚子館までは十五分	兵庫	藤井啓子			
草相撲学生向けに山稽古	兵庫	荒川裕紀			
朝夕の庭は晩夏の風であり	奈良	好川忠延			
参道の老舗の女将新豆腐	兵庫	武田優子			
流星となつて見守り給へかし	兵庫	池田雅かず			
鳴く蟬や諸行無常の時過ぐる	京都	西村やすし			
打水をしてをさめたる日の匂ひ	兵庫	・村玲子			
星祭海の吊橋七色に	兵庫	三木雅子			
盆の市野山の花をどつさりと	兵庫	小川孝子			
欠かされぬ手洗ひうがい秋暑し	兵庫	長安悦子			
九頭龍の神水受けし今朝の秋	千葉	玉井令子			
敗戦日ズーム飲み会へと集ふ	京都	杉森大介			
黒鷲二羽船型岩のタイタニック	兵庫	安藤裕子			
紫をちらとのぞかせ野朝顔	兵庫	岸田 健			
蛸の広げてゆきし静寂かな	兵庫	金田八江子			
踊の輪抜ければ子等の母の顔	兵庫	入谷千恵子			
世の憂さを忘れ跳ねたし踊りたし	兵庫	西村みどり			